

# 大学生の自律性を高める英語の授業 —NHK 教育番組「リトル・チャロ」の問題作成と授業実践—

カレイラ 松崎 順子<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 東京経済大学現代法学部 〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34  
E-mail: <sup>1</sup>carreira@tku.ac.jp,

## University English Lessons to Enhance Students' Autonomy —Creating Quizzes and Giving Lessons using *Little Charo*—

Junko Matsuzaki CARREIRA<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Faculty of Contemporary Law, Tokyo Keizai University 1-7-34 Minami-cho, Kokubunji-shi, Tokyo  
185-8502 Japan  
E-mail: <sup>1</sup>carreira@tku.ac.jp

**Abstract** This study introduced a motivational strategy suggested by Dörnyei (2001) to promote students' autonomy: handing over various teaching roles and functions to learners. The participants in this study were 67 second-year university students at a private college. In all, 15 lessons were conducted during three months. The participants, who had been divided into several groups, created a quiz based on *Little Charo*, or an NHK English education program. They later gave a lesson using the quiz which they created. The research was conducted by analyzing the students' responses to questionnaires. Results show that creating a quiz based on *Little Charo* was enjoyable, challenging, confidence-building, and otherwise rewarding for the participating students. Moreover, the English lessons using *Little Charo* were enjoyable, challenging, confidence-building, and otherwise rewarding for them. Results of this study revealed that students learned English more positively and were satisfied with lessons using *Little Charo* by giving students positions of higher responsibility.

**Keywords:** autonomy, English education program, motivational strategy, remedial

### 1. はじめに

近年日本の大学において「相次ぐ学習指導要領の改正による『ゆとり教育』のもと、履修科目数や授業時間数の減少、中学校・高等学校における基礎的なリテラシー教育の重要性に対する意識低下、大学入試の多様化、少子化と相次ぐ大学・学部等の新增設に伴う高等教育の大衆化等」<sup>[1]</sup>の原因により基礎学力が不足している学習者が大学に増えてきた。そのため「大学の講義についていけるだけの学力や知識の獲得を助ける」<sup>[2]</sup>リメディアル教育への関心が高まっており<sup>[3]</sup>、多くの大学でリメディアル教育を実施している。大学の英語の授業においても偏差値が低いといわれている大学では中学校レベルの英文法が身につけていない学生が大半で、中にはアルファベットさえもまともに書けない学生が在籍している。

本研究で研究対象にした学生が在籍する心理系の学部でも英語が苦手な英語学習に対する動機づけが低い学生が多く在籍していた。心理系の学部ではあるが、

保育士や幼稚園教諭の資格を取得できるため、子ども好きでかわいいものを好む学生が多い。ゆえに、彼らの英語学習に対する動機づけを高めるために、彼らが好みそうなかわいい教材、具体的には「リトル・チャロ」を取り入れてみることにした。「リトル・チャロ」は2008年4月からNHK教育テレビジョンおよびNHKラジオ第2放送で放映されたほぼ全編英語で制作された英会話番組で、テレビ、ラジオの他、番組ホームページおよび携帯サイトなど様々な媒体で学習できる。あらすじは、少年翔太に拾われ、育てられた日本の子犬チャロがアメリカ旅行からの帰国の際、何かの手違いによってチャロの入ったケージが飛行機には乗らず、チャロはニューヨークのJFK空港で迷子になってしまう。チャロは何とか日本に帰る方法を探し、翔太との再会を願いながら、ニューヨークの犬たちとの友情を築き、さまざまな経験を積んでいくという話で、大学生でも十分楽しめる内容のアニメであるが、番組では基礎的な語彙や文法事項が主に使用されてい

る。また、スクリプトが掲載されているテキストも全ページカラーでかわいいイラストが多く描かれており、とても読みやすい。カレイラ<sup>[4]</sup>は「リトル・チャロ」を取り入れた大学の英語の授業の授業実践を行い、「リトル・チャロ」は保育などの子どもに関係する学部の学生には適切な英語のリメディアル教育の教材であることを示しているが、カレイラ<sup>[5]</sup>が行った授業実践は「リトル・チャロ」を視聴した後に、教員が文法や語彙の説明を行い、その後に学生がペアで音読を行うという授業で、学生が主体的に参加する授業ではない。よって、本研究では学生がより主体的に授業に参加できるように、ドルニエイ<sup>[6]</sup>が提案した動機づけストラテジーのうち、「学習者の自律性を積極的に促進することにより、生徒の動機づけを強化する」<sup>[7]</sup>を「リトル・チャロ」を使った英語の授業に意識的に取り入れてみることにした。

## 2. 動機づけストラテジー

動機づけストラテジーとは「体系的で長続きするプログラムの効果を実現するために、意識的に与えられる動機づけの影響」<sup>[8]</sup>のことである。ドルニエイは動機づけストラテジーを以下の4つのカテゴリーに分類し、35の動機づけストラテジーを提案している<sup>[9]</sup>。

学習開始時の動機づけを喚起するストラテジー

- ・L2に関連する好ましい価値観と態度を強化する。
- ・学習の成功への期待感を高める。
- ・目標志向性を強化する。
- ・教材を学習者にとって関連の深いものにする。
- ・現実的な学習者信念を育てる。

動機づけの基礎的な環境を作り出すストラテジー

- ・教師が適切な行動をとる。
- ・教室内に楽しい、支持的な雰囲気を作成する。
- ・適切な集団規範を持った、結束的学習集団を育てる。

動機づけを維持し保護するストラテジー

- ・学習をワクワクして楽しいものにする。
- ・動機づけを高めるようにタスクを提示する。
- ・明確な学習目標を設定する。
- ・学習者の自尊感情を大切にし、自信を高める。
- ・肯定的な社会的心象を維持させる。
- ・学習者の自律性を育む。
- ・自己動機づけストラテジーを推奨する。
- ・仲間同士の協力を推奨する。

肯定的な自己評価を促進するストラテジー

- ・動機づけを高めるような追観を促進する。
- ・動機づけを高めるようなフィードバックを与える。
- ・学習者の満足感を高める。

- ・動機づけを高めるような報酬を与え、成績評価をする。

本研究ではその中の「動機づけを維持し保護するストラテジー」のうちドルニエイ<sup>[10]</sup>が提案したストラテジー29を授業の中に取り入れた。以下ではストラテジー29について詳述する。

ストラテジー29「学習者自律性を積極的に促進することにより、生徒の動機づけを強化する」<sup>[11]</sup>では、具体的には以下のことがあげられている。

29-1. 学習過程のできる限り多くの側面について、学習者が真の選択をすることを許容する。

29-2. 様々な統率や指導の役割と機能を、できる限り多く学習者に譲渡する。

9-3. 支援者の役割を取り入れる

今まで動機づけストラテジーを英語の授業に取り入れた研究はいくつか行われてきた。第一に、学習者がどのような学習ストラテジーを使っているかを調べたもので、杉野・植田・阿部・清水<sup>[12]</sup>は学生が英語学習に対する動機づけを失くしたきっかけは何か、また、動機づけが高い学生は、どのような動機づけストラテジーを使っているのかなどをインタビューによって明らかにしている。第二に、教師がどのような動機づけストラテジーを使っているのかを調査したもので、Dörnyei & Csizér<sup>[13]</sup>や Cheng & Dörnyei<sup>[14]</sup>がハンガリーと台湾の教師の動機づけストラテジーをそれぞれ調べている。第三に、動機づけストラテジーを取り入れた実践研究があげられる。たとえば、カレイラ<sup>[15]</sup>はドルニエイ<sup>[16]</sup>の動機づけストラテジーを e-Learning の授業に取り入れて、学生の好きな有名人についてインターネット上で調べ、英語でレポートを書くというタスクを行い、学生に授業の中で選択の自由を多く与えることにより、学生の英語学習に対する意欲を高めることができたことを報告している。

## 3. 本研究の目的

上述したように、動機づけストラテジーを取り入れた研究はいくつか行われてきたが、主に学習者や教師がどのような動機づけストラテジーを使用しているかというものが多い。カレイラ<sup>[17]</sup>のように授業実践を行い、その効果を調べた研究はまだ少ない。よって、本研究ではドルニエイ<sup>[18]</sup>が提案した動機づけストラテジーのうち、「学習者の自律性を積極的に促進することにより、生徒の動機づけを強化する」の29-2.「様々な統率や指導の役割と機能を、できる限り多く学習者に譲渡する」<sup>[19]</sup>を大学の英語の授業に意識的に取り入れ、学生が「リトル・チャロ」を取り入れた授業をどのように評価しているかを調べることにした。具体的には、学生に指導の役割を与えるために、「リトル・チ

ャロ」のテキストをもとに学生自ら問題を作成し、それらを使った授業を英語のリメディアル教育の一環として行うことにした。

以下の2つのリサーチクエスチョンを設定し、参加した学生がこれらの活動を取り入れた授業をどのように評価しているのかを調べた。

1. 本研究に参加した学生は「リトル・チャロ」の問題作成をどのように評価したであろうか。
2. 本研究に参加した学生は「リトル・チャロ」を取り入れた授業をどのように評価したであろうか。

## 4. 研究の方法

### 4.1. 参加者

本研究に参加したのは、東京の私立大学の心理系の学部の2年生の英語コミュニケーションⅡ(週1回90分・全15回)を受講した67名である。授業は2011年10月から2012年1月に行われた。彼らの英語力はTOEIC200~300程度である。

### 4.2. 授業内容

本研究では「リトル・チャロ1 語学シリーズ NHK テレビアニメ版ストーリーブック」<sup>[20]</sup>をテキストとして使用し、「リトル・チャロ ~ニューヨーク編~ Vol.1 ロスト・イン・ニューヨーク」<sup>[21]</sup>と「リトル・チャロ ~ニューヨーク編~ Vol.2 恋の予感」<sup>[22]</sup>のDVDを使用した。授業は全15回行い、1回目は授業ガイダンスを行い、15回目は試験を行った。

2回から6回は以下の手順で授業を行った。

1. 挨拶および出席確認を行う。
2. グループに分かれ、問題作成を行う。

9回から14回は以下の手順で授業を行った。

1. 挨拶および出席確認を行う。
2. 担当するグループが前に出てきて作成した問題を配布し、問題に目を通すように指示をする。
3. 該当する場面の「リトル・チャロ」のDVDを視聴する。
4. DVDを視聴後、各自が問題を解き、最後に担当グループが答え合わせとそれらの解説を行う。

### 4.3. 分析方法

#### 4.3.1. ARCS 動機づけモデルによる評価

「リトル・チャロ」を取り入れた授業が、学習意欲を促進するものであったかどうかを調べるためにARCS 動機づけモデルによる学習者評価を行った。ARCS 動機づけモデルは、「注意」(Attention)、「関連性」(Relevance)、「自信」(Confidence)および「満足感」(Satisfaction)の4側面からとらえ、学習者のプロフィールや学習課題/環

境の特質に応じた意欲喚起の方略を系統的に取捨選択して教材に組み入れていこうとするものであり<sup>[23]</sup>、Keller<sup>[24]</sup>によって提唱された。鈴木<sup>[25]</sup>はARCS 動機づけモデルの4側面を以下のように解説している。

ARCSモデルにしたがって学習意欲の要因をたどると、まず、面白そうだ、何かありそうだという注意の側面(A)にひかれる。次に、学習課題が何であるかを知り、やりがいがありそうだ、自分の価値とのかかわりがみえてきたという関連性の側面(R)に気づく。課題の将来的価値のみならず、プロセスを楽しむという意義も関連性の一側面である。一方で、学習に意味を見い出しても、達成への可能性が低い、やっても無駄だと思えば意欲を失う。逆に、初期に成功の体験を重ね、それが自分の努力に帰属できれば「やればできる」という自信の側面(C)が刺激される。学習を振り返り、努力が実を結び「やってよかった」との満足感(S)が得られれば、次への意欲につながっていく。

本研究はARCS動機づけモデルの研究を行っている鈴木<sup>[19]</sup>を参考にし、「リトル・チャロ」の問題作成に関する4項目(付録1を参照)と「リトル・チャロ」を使った授業に関する4項目(付録2を参照)を作成した。なお、4段階尺度形式(4.あてはまる, 3.まあまああてはまる, 2.あまりあてはまらない, 1.あてはまらない)を採用し、各項目の平均値および標準偏差を求めた。なお、これらの項目に関して参加した学生がどのような考えを持っているのかをより明確にするため、4段階尺度形式を「あてはまる」「あてはまらない」の2段階に変換し、再集計した上で $\chi^2$ 検定を行った。

#### 4.3.2. 自由記述式の質問紙

授業に関する感想を書く自由記述式の質問紙調査を行った。質問項目は「『リトル・チャロ』の問題を作成した感想を自由に書いてください」と「『リトル・チャロ』を取り入れた授業についての感想を自由に書いてください」である。

## 5. 結果

### 5.1. 「リトル・チャロ」の問題作成に対する評価

表1は「リトル・チャロ」の問題作成に対する評価4項目の平均値および標準偏差である。

表1 「リトル・チャロ」の問題作成に対する評価4項目の平均値および標準偏差

	平均値	標準偏差
項目1	3.37	1.23

項目 2	3.51	1.12
項目 3	3.33	1.26
項目 4	3.42	1.20

$\chi^2$ 検定の結果(表2を参照),「リトル・チャロ」の問題作成に関しては項目1「面白かった」( $\chi^2 = 22.70$ ,  $df = 1$ ,  $p < .01$ ), 項目2「やりがいがあった」( $\chi^2 = 30.22$ ,  $df = 1$ ,  $p < .01$ ), 項目3「自分に自信がついた」( $\chi^2 = 20.43$ ,  $df = 1$ ,  $p < .01$ ), および項目4「満足感が得られた」( $\chi^2 = 25.09$ ,  $df = 1$ ,  $p < .01$ )において, 5%水準で有意に「あてはまる」と回答した人数に有意な偏りが見られた。

表2「リトル・チャロ」の問題作成の感想に関する4項目の $\chi^2$ 検定結果

	4段階尺度を2段階尺度に変換し集計した結果		2段階尺度数に対する $\chi^2$ 検定結果
	あてはまらない	あてはまる	
項目1	14	53	22.70**
項目2	11	56	30.22**
項目3	15	52	20.43**
項目4	13	54	25.09**

\*\* $p < .01$

『リトル・チャロ』の問題を作成した感想を自由に書いてください」に関する回答は以下のようなものがあげられた。

大変だった・難しかった(12名)

回答例

- 教科書の和訳のページを見ながらでも、英文の意味や単語を照らし合わせて問題を作るのは大変でした。でもだんだん、その章の話の雰囲気や単語でコツがつかめてきました。
- 問題を作るということは難しいと思いました。そして、単語や文法をちゃんと理解しておけばこうゆう問題を作る機会とかにも悩まずにスムーズにできることにも気づきました。
- 難しかったです。英語が苦手だから余計に。教科書からぬきとるにしても重要な部分をとっていきなさいいけないので大変でした。
- チャロの英文と訳を見て問題を作ることはとても難しかったです。ただ文章が書いてあるだけではどこが重要なかわからず、問題として取り上げるべき文章を抜き出すのに苦労しました。
- 問題を作ってみて、普段は作るのではなくて解くだけだったけれど、作るほうが解く方よりも内容を理解しないといけないしで大変だなと思いました。

- 問題を作ってみて、意外と難しいということがよくわかりました。教科書から抜き出すにしても単語がわからないと穴埋めや、日本語文にするのも難しいということを実感できたのでよかったです。
- 実際にチャロの問題を作ってみて、まず内容を自分がしっかり理解していないと、問題を作ることができないので、そこから始めるのが大変でした。

勉強になった・いい経験になった(8名)

回答例

- 単語の読みや意味なども細かく調べることができたのでとても勉強になりました。
- リトル・チャロは毎週授業で見っていたので、問題は作りやすかったです。ストーリーも面白いし、リスニングの勉強にもなるなと思いました。
- すべての作業を通し、英語を理解する能力はもちろん、問題文を作る能力や大事な部分を見極める能力も身につけることができたように思います。
- チャロの問題を作ってみて、わかっているつもりで見落としていた部分がたくさんあることに気づきました。単語一つでも、文脈や日本語文を見ながら読んでみると実際はわかっているものがあることがわかりました。日本語と英文での表現の違いには面白いものがあるんだということも発見できました。
- また問題を作ることで自分でいろいろ調べなくてはいけないので、自分自身の勉強にもなり、いい経験が出来たと思います。

今度も作ってみたい(2名)

回答例

- 今後も機会があれば、違う Episode などで問題を作ってみたいと思いました。
- 英語の問題を自分達の手だけで製作するのは、初めての経験で大変でしたが、その分自分の語彙力も身につけることができたので、よかったです。また機会があれば、ぜひやってみたいと思いました。

楽しかった(2名)

回答例

- 自分たちで問題を作ってみるみんなに出すということが初めてだったのでとても楽しかった。
- いつもは授業中にプリントを配られて答える側だけれど、問題を作る側になることも意外に楽しかったです。

その他以下のような意見もあげられた。

- 普段自分で問題を作るという作業を行わないので、とても新鮮な気持ちで問題を作ることができました。

- ・ その後の問題もレベルの高い問題を出すグループが多くてやりがいがあります。
- ・ 発表していないときは、きちんと問題を解くことに集中していて、発表をしているときも、みんな喋らずにちゃんと聞いていてくれて説明しやすくとても発表しやすい環境でした。
- ・ みんなに楽しんで解いてもらえるように色々と工夫して作りました。問題は、単語の意味を選ぶもの、ストーリーの内容と一致する説明を選ぶもの、英単語を並べ替えて正しい英文に直すもの、和文英訳、穴埋め問題、キャラクターの名前というように、種類も色々と用意しテキストが無ければ解くのが難しいかなりレベルの高いものにしました。みんな一生懸命に解いてくれたので良かったです。

## 5.2. 「リトル・チャロ」を使った授業に関する感想

表3は「リトル・チャロ」の問題作成に対する評価4項目の平均値および標準偏差である。

表3「リトル・チャロ」を使った授業に関する評価4項目の平均値および標準偏差

	平均値	標準偏差
項目1	3.87	0.63
項目2	3.68	0.94
項目3	3.33	1.26
項目4	3.60	1.03

$\chi^2$ 検定の結果(表4を参照)、「リトル・チャロ」を使った授業は項目1「面白かった」( $\chi^2 = 55.53$ ,  $df = 1$ ,  $p < .01$ ), 項目2「やりがいがあった」( $\chi^2 = 40.02$ ,  $df = 1$ ,  $p < .01$ ), 項目3「自分に自信がついた」( $\chi^2 = 20.43$ ,  $df = 1$ ,  $p < .01$ ), および項目4「満足感が得られた」( $\chi^2 = 35.84$ ,  $df = 1$ ,  $p < .01$ )において、5%水準で有意に「あてはまる」と回答した人数に有意な偏りが見られた。

表4 「リトル・チャロ」を使った授業に対する感想に関する4項目の $\chi^2$ 検定結果

	4段階尺度を2段階尺度に変換し集計した結果		2段階尺度数に対する $\chi^2$ 検定結果
	あてはまらない	あてはまる	
項目1	3	64	55.53**
項目2	7	58	40.02**
項目3	15	52	20.43**
項目4	9	58	35.84**

\*\* $p < .01$

『リトル・チャロ』を使った授業に対する感想を自由に書いてください」に関する回答は以下のようなものがあげられた。

楽しかった(26名)

回答例

- ・ クロスワードは正直にすごい!と思った。自分たち以外のチームの問題を解くのは楽しく問題に接することができたし、自分の勉強のためにもなった。
- ・ 内容も易しすぎず、難しすぎずという、適度な難易度になっている問題がほとんどだったので、解きやすく楽しかったです。
- ・ チャロの物語に沿った問題だったので、英語が苦手な私でも楽しみながら問題を解くことができました。そして、高校のときみたいな英語の授業で配られるプリントとは少し違って、面白い部分もあり楽しかったです。

わかりやすい(20名)

回答例

- ・ 難しすぎずという、適度な難易度になっている問題がほとんどだったので、解きやすく楽しかったです。
- ・ ほかの人たちが作った問題は、解説などもわかりやすかった。解きやすかった。
- ・ 映像を見つつ問題を解く形式がとても個人的にはわかりやすくやりやすいと感じました。

勉強になった(13名)

回答例

- ・ まったく手がつけられないような問題を解くより、今回のように自分の英語力で解けるような問題をたくさん解くほうが英語力は向上すると思いました。勉強になりました。
- ・ みんなが作った問題を解いて、普段とは違う角度から勉強できたのでいい勉強になりました。

理解することができた(11名)

- ・ チャロを見ながらテストをすることで、ストーリーで大切なところや、大切な単語などを理解することができました。
- ・ チャロの映像を見てから解いたりしたのでより理解を深めることができた。
- ・ みんなが作ってくれた問題はクロスワードがあったり、とても解りやすく面白くて、単に映像を見て学ぶよりもさらに内容や文法などが理解できたような気がします。
- ・ チャロの本を読みながらやれば、英語がわからない私にもやりやすく問題を理解できました。

難しい・大変だった(7名)

#### 回答例

- ・ 私自身英語は苦手な方なので、まるまる英語で答える問題などには苦戦しました。
- ・ 英語が苦手なので解くのが大変だったけど、映像を見ながら解くことができたのである程度解くことができました。

もっと勉強すべきである(4名)

#### 回答例

- ・ そう簡単なものばかりでなく、わからないものもたくさんあり、よりチャロの内容を理解しなくなったし、文法や単語など、しっかり勉強しないといけないと思いました。

また受けたい(4名)

#### 回答例

- ・ みんなが作った問題を解くことは、とても良い刺激になりました。今までの学習の中で、自分たちで問題を作って、みんなに答えてもらうということはなく、最初は不安でいっぱいでした。しかしほかの人が作った問題を解いていくうちに、「こういう問題の出し方もあるんだ」とか「この人はこの文章を重要視したんだ」といったような、新たな視点で文章を読むことができました。また機会があればこういった授業をやってほしいです。

身に付く・ためになる(3名)

#### 回答例

- ・ みんな一生懸命わからない英語を頑張って作ったものは私たちにとってもその人にとっても身につくことだと思う。

やりがいがあった(2名)

#### 回答例

- ・ 同じ学生が作ったとは思えないほど、しっかり考えないと解けないテストが多く、テストはやりがいがありました。

その他以下のような意見もあげられた。

- ・ 私の中で、英語は苦手な難しいというイメージが強かったですが、今回このような課題に取り組んでみて、楽しく学べば自分の中にしっかりと吸収させることができるということがわかりました。このことを今後も生かしていきたいと思います

## 6. 考察

はじめに、リサーチクエスチョン1「本研究に参加した学生は『リトル・チャロ』の問題作成をどのように評価しているのだろうか」を検討していく。「リトル・チャロ」の問題作成に関する感想をたずねた項目1から項目4に関して $\chi^2$ 検定を行った結果、項目1「面白かった」、項目2「やりがいがあった」、項目3「自信

がついた」、および項目4「満足感が得られた」において5%水準で有意となり、「あてはまる」と回答した人数が「あてはまらない」と回答した人数よりも多かった。ゆえに、本研究に参加した学生は「リトル・チャロ」の問題作成を「楽しかった」「やりがいがあった」「自信がついた」「満足感が得られた」と感じていたことがわかる。これは、与えられた問題を解くだけでなく、難しければ解くのをあきらめてしまうであろうが、問題を作成するという主体的な役割や授業を行うという責任を与えられたため、難しいけれども問題を作成するという課題を全うしたことにより、やりがいがあった、楽しかった、満足感が得られたと感じたのだと思われる。

一方で、自由記述式の回答では「英文の意味や単語を照らし合わせて問題を作るのは大変でした」など多くの学生が「リトル・チャロ」の問題を作成したことを大変で難しかったと述べていた。

次いで多かった意見は「単語の読みや意味なども細かく調べることができたのでとても勉強になりました」など「勉強になった・いい経験になった」であった。特に、「問題を作ることで自分でいろいろ調べなくてはいけなくて、自分自身の勉強にもなり、いい経験が出来たと思います」「すべての作業を通し、英語を理解する能力はもちろん、問題文を作る能力や大事な部分を見極める能力も身につけることができたように思います」など、教師の役割を与えたことにより、参加した学生は主体的に学習した結果、「勉強になった・いい経験になった」と感じたことがこれらの記述よりわかる。

ところで、多くのグループが並べ替え問題や空所問題などを中心に問題を作成していたが、いくつかのグループはクロスワードを作成し、また、絵などを取り入れて視覚的に楽しめる問題を作成していたが、やはりそのような問題に関しては他の学生たちは喜んで解答している様子が見られた。

以上のことから 29-2 「様々な統率や指導の役割と機能を、できる限り多く学習者に譲渡する」<sup>[26]</sup>という動機づけストラテジーを取り入れ主体的に学習したことにより、本研究に参加した学生は、大変だったけれども自分で調べることにより勉強になったと感じ、「リトル・チャロ」の問題を作成する活動を面白く、やりがいがあり、自信がつき、さらに満足感が得られたと評価したのだろうと思われる。

つぎに、リサーチクエスチョン2「本研究に参加した学生は『リトル・チャロ』を取り入れた授業をどのように評価しているのだろうか」について検討していく。「リトル・チャロ」を取り入れた授業に関する評価に対して $\chi^2$ 検定を行った結果、項目1「面白かった」、

項目2「やりがいがあった」、項目3「自信がついた」、および項目4「満足感が得られた」において5%水準で有意となり、「あてはまる」と回答した人数が「あてはまらない」と回答した人数よりも多かった。ゆえに、本研究に参加した学生は「リトル・チャロ」を取り入れた授業を「楽しかった」「やりがいがあった」「自分に自信がついた」「満足感が得られた」と感じていることが明らかになった。

さらに、自由記述式の回答においても、多くの学生が「リトル・チャロ」を取り入れた授業を楽しかったと述べていたことから、本研究に参加した学生は「リトル・チャロ」を取り入れた授業を楽しんでいたことがわかる。次に多かった回答は「わかりやすかった」であるが、これは「チャロの物語に沿った問題だったので、英語が苦手な私でも楽しみながら問題を解くことができました」「映像を見つつ問題を解く形式がとても個人的にはわかりやすくやりやすかったです」と感じましたなどであるように、「リトル・チャロ」の物語や映像を使用したためにわかりやすく感じたという意見と「ほかの人たちが作った問題は、解説などもわかりやすかった。解きやすかった」などと学生が作った問題のレベルや解説などが分かりやすかったという2つの意見に分けられる。また、「理解することができた」という意見も11名の学生が記述しているが、これも「チャロの映像を見てから解いたりしたのでより理解を深めることができた」などの「リトル・チャロ」という映像を見ながら学習したことによるものと「みんなが作ってくれた問題はクロスワードがあったり、とても解りやすく面白くて、単に映像を見て学ぶよりもさらに内容や文法などが理解できたような気がします」など学生が作成したテストを解くことにより理解できたという2つに分類できる。すなわち、「リトル・チャロ」という映像を取り入れたことと学生自身が作成した問題を解いたことにより、本研究に参加した学生は本授業をわかりやすいと感じ、学んだことがよく理解できたと評価したのだらうと思われる。

## 7. おわりに

本研究では、リメディアル教育の一環として、NHKで放送された英会話番組である「リトル・チャロ」を英語の授業に取り入れ、特に、学生の自律性を満たすために、学生にグループで問題を作成させ、さらに、彼らに授業を行わせた。その結果、「リトル・チャロ」を使用した授業はわかりやすく、多くの学生が自分でも英語が聞き取れたという自信を持つことができ、さらに、楽しみながら英語を学習していたことが明らかになった。英語のリメディアル教育では中学校で学ぶ英文法などを学び直す授業などが多く行われているが、

本研究のように学生に責任のある立場を与える授業も学生の英語学習に対する動機づけという観点では効果があるといえるであろう。しかし、本研究からではどこからが教材そのものの効果で、どこからが指導法の効果なのかは明らかではない。今後はこれらのことを明らかにできるような研究を行っていく必要があるであろう。

## 文 献

- [1] 甲田直喜, “リメディアル教育における文法項目の誤答調査と到達度目標,” 淑徳短期大学研究紀要第50号, pp.225-240, 2011.
- [2] 桃井龍慈, 町屋昌明, 岩村満, 高橋朗, 高橋哲徳, “八戸工業大学におけるリメディアル英語教育と教科書作成の取り組み,” 八戸工業大学紀要第28号, pp. 229-241, 2009.
- [3] A Takase, K Otsuki, “The impact of extensive reading on remedial students,” 近畿大学教養・外国語教育センター紀要外国語編第2号, pp.331-345, 2011.
- [4] カレイラ松崎順子, “NHK教育番組『リトル・チャロ』を取り入れた大学の英語のリメディアル教育,” 映画英語教育研究 2013 第18号, pp.53-65, 2013.
- [5] カレイラ松崎順子, “NHK教育番組『リトル・チャロ』を取り入れた大学の英語のリメディアル教育,” 映画英語教育研究 2013 第18号, pp.53-65, 2013.
- [6] ドルニエイ・ゾルタン, “動機づけを高める英語指導ストラテジー35 大修館書店,” 2005.
- [7] ドルニエイ・ゾルタン, “動機づけを高める英語指導ストラテジー35 大修館書店,” 2005, p.129.
- [8] ドルニエイ・ゾルタン, “動機づけを高める英語指導ストラテジー35 大修館書店,” 2005, p. 30
- [9] ドルニエイ・ゾルタン, “動機づけを高める英語指導ストラテジー35 大修館書店,” 2005, p. 32.
- [10] ドルニエイ・ゾルタン, “動機づけを高める英語指導ストラテジー35,” 大修館書店, 2005.
- [11] ドルニエイ・ゾルタン, “動機づけを高める英語指導ストラテジー35,” 大修館書店, 2005, p. 129.
- [12] 杉野俊子・植田麻実・阿部恵美佳・清水順自律学習に役立つ動機づけストラテジーの理論と実践 工学院大学研究論叢 (51-1), pp.21-34,2013
- [13] Dörnyei, Z., & Csizér, K., Ten commandments for motivating language learners: Results of an empirical study, *Language Teaching Research*, 2, pp.203-229, 1998.

- [14] Cheng, H., & Dörnyei, Z, The use of motivational strategies in language instruction: The case of EFL teaching in Taiwan. *Innovation in Language Learning and Teaching, 1*, pp.153-174, 2007
- [15] カレイラ松崎順子, “動機づけストラテジーを取り入れた英語の授業の事例報告,” *The Saitama Journal of Language Teaching, 2*, 2-12,2008
- [16] ドルニエイ・ゾルタン, “動機づけを高める英語指導ストラテジー35,” 大修館書店, 2005.
- [17] カレイラ松崎順子, “動機づけストラテジーを取り入れた英語の授業の事例報告,” *The Saitama Journal of Language Teaching, 2*, 2-12,2008
- [18] ドルニエイ・ゾルタン, “動機づけを高める英語指導ストラテジー35,” 大修館書店, 2005.
- [19] ドルニエイ・ゾルタン, “動機づけを高める英語指導ストラテジー35,” 大修館書店, 2005, p.129.
- [20] わかぎゑふ, 佐藤良明, 榎木玲子, “リトル・チャロ 1 語学シリーズ NHK テレビアニメ版ストーリーブック”, NHK 出版, 2008.
- [21] NHK エンタープライズ, “リトル・チャロ ~ニューヨーク編~ Vol.1 ロスト・イン・ニューヨーク,” NHK エンタープライズ, 2008.
- [22] NHK エンタープライズ, “リトル・チャロ ~ニューヨーク編~ Vol.2 恋の予感,” NHK エンタープライズ, 2008.
- [23] 鈴木克明, “「魅力ある教材」設計・開発の枠組みについて—ARCS 動機づけモデルを中心に—,” *教育メディア研究* 第 1 号, pp.50-61, 1995.
- [24] Keller, J. M, “Motivational design of instruction,” In C. M. Reigeluth (Ed.), *Instructional-design theories and models: An overview of their current status,* Lawrence Erlbaum Associates, U.S.A. 1983.
- [25] 鈴木克明, “「魅力ある教材」設計・開発の枠組みについて—ARCS 動機づけモデルを中心に—,” *教育メディア研究* 第 1 号, pp. 50-61, 1995, p.53.
- [26] ドルニエイ・ゾルタン, “動機づけを高める英語指導ストラテジー35,” 大修館書店, 2005, p.129.

#### 付録 1

- 項目 1. 「リトル・チェロ」の教材を作ることは面白かった。
- 項目 2. 「リトル・チェロ」の教材を作ることはやりがいがあった。
- 項目 3. 「リトル・チェロ」の教材を作ることは自分に自信がついた。
- 項目 4. 「リトル・チェロ」の教材を作ることは満足感

が得られた。

#### 付録 2

- 項目 1. 「リトル・チェロ」を使った授業は面白かった。
- 項目 2. 「リトル・チェロ」を使った授業はやりがいがあった。
- 項目 3. 「リトル・チェロ」を使った授業は自分に自信がついた。
- 項目 4. 「リトル・チェロ」を使った授業は満足感が得られた。

#### 付録 3 学生が作成した問題の例

What was Sirius's question?

- a Why does Charo want to return to Japan?
- b Why did Catherine hurt Dread's eye?
- c Why did Dread save Catherine?
- d Why has the suspect run into the apartment building?

What did Dread ask Sirius to do?

- a to capture the suspect.
- b to look after Charo.
- c to revenge Catherine.
- d to give a sausage for Charo.